

右田道灌雄飛録
四

遠
2510
6-4



遠
25/0
6-4



大田道灌雄飛録卷之四

目録

- 一 天ノ二ツの日おびゆるり附り上杉顯房五十二子を率かかり
- 一 右田道灌上洛のり附り美政公へ謁見義勅答保奇のり
- 一 成氏長尾昌賢と武州今井軍のり
附り結城成朝武のり
- 一 成氏長尾昌賢と武州六郷やり再び軍のり
附り小机彈正長柄のり
- 一 古河方政知と伊豆國三島やり合戦のり
附り古河方敗軍の事
- 一 長尾昌賢古河の城を落し成氏千葉へ退去のり
- 一 長尾景春逆心附り右田道灌異見のり
- 一 道灌上杉子孫長保を勸む附り長保叛のり

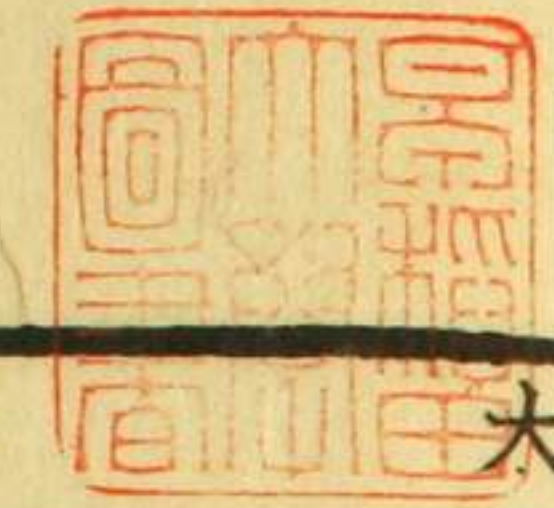
大田道灌雄飛録卷之四目録

涼風の吹鳥とくしきと
神田の社ありかりと
侍とに

大田道灌

晴るれば春ふりさき
月夜にのこりぬ

大田道灌雄飛録卷之四



東都 木村梅年忠貞編輯

○天正二の月廿二日。所より上杉房頭陣中にて奉旨の夏
長福も傳四奉りて其奉の十二月廿二日改元ありて。寛正元年とぞあり
たり。然るも明も二年辛巳正月元日。天正二の月廿二日改元ありて。天正二年
改元ありて。同日の夕方に。女名思深とせん。今ほても
穩まらざる世の中。入りある事奉。秋もあんと。八分。敬上人より。て
下る旅。とて。農夫。あつた。で。魂。け。膝。と。冷。ま。び。と。り。者。あ。り。ま。れ。と。と
京。都。の。後。願。富。山。入。道。徳。本。が。家。督。の。付。政。長。義。就。遺。跡。と。あ。り。と。い。ひ。ぬ。
軍。好。り。し。り。よ。う。か。も。何。と。や。ん。林。を。う。け。又。東。國。の。山。内。の。兵。助。土。浦。房
頭。武。員。五。十。子。久。く。在。陣。と。て。屢。御。所。方。と。戦。王。日。あ。り。と。て。一。統。の

嘉樂門院之故弟門内大臣信宗公の姫君あり。皇上前御後のとらむ仲
 實公二十歳ふあ〜むう入關向二條相國持通公あり。將軍長政公院の
 執事とあり。唯之居の宣下あり。公緒國の武家より侍尉治の若くは公
 小右軍家への加儀とて。使者曰くお上洛とて親領を仰ふる付。關東より
 も麻谷の上杉修理之末定正より。老臣太田左衛門持實又使者公會
 きて。公持實畏りて先年又資清入道とて。道真と號す。劍小働い。入道とて
 罷上つとやとの頼いお付き。定正許容あり。いふすれつち入道とて道灌と
 号し。頃て都へ上り。至着のう時の管領畠山尾張守政長おはして。
 今度慶賀の爲上洛の由とて。別義政公は目見せつけ。色上り。公
 關東の奉教奉授れとて。群臣の親あり。いふやとて。勢あり。いふとて。そ
 はへ。秋果代り。早く一洗の功を立て。吾民の塗炭と移るべし。

何のとらぬ道灌とて。中頃の東國奉均の事。輒るべし。もなん。まじり。其
 故の若くは公始り。とて。諸事ふあるまで。二細を失ひ。五常を失り。て。更長忠義
 無く。父子孝貞を。知れ。と。はる。あつ。ぬ。ぐ。う。史婦の。別も。味。小。也。初。は。律。ひ
 多。く。う。り。ぬ。ま。況。や。朋友の。信。有。る。も。思。ひ。よ。く。は。て。懲。り。執。り。と。て。ま
 飽。く。と。ま。る。或。の。苛。政。を。り。て。民。を。苦。め。又。一。朝。の。怒。り。我。を。專。と。て。
 嗚。呼。の。味。も。今。日。此。敵。と。な。り。人の。道。と。する。ま。と。學。を。た。さ。れ。ば。偏。は。夷。狄
 の。如。し。か。る。者。も。恐。る。は。横行。して。弱。き。公。敵。り。強。き。公。敵。り。村。邑。を。奪。ひ
 郡。縣。を。掠。り。爰。此。の下。知。り。も。従。ひ。て。已。が。さ。ら。ぬ。と。あり。され。ば。一。應。再。急。を。ん
 嚴。命。あり。も。も。つ。て。分。する。の。あ。る。と。て。思。は。熟。妻。を。も。ふ。若。今。の。軍。家。の。の
 知。勇。か。と。兼。備。し。る。之。將。と。え。い。び。大。軍。を。起。し。東。西。へ。一。に。降。る
 者。の。其。人の。言。悪。ふ。つ。と。て。不。願。と。ま。ま。ま。の。降。を。事。り。ん。と。する。もの。の。一。と。ふ

攻亡が。様まふもこのて寛猛の山賊事あむ。あ之率ふのひのめら故
 基氏々の時のて治平とらうゆん。外外ふあふを静燈戸入り新く。
 ぶ。て。輝くもともあてそのまふは速く。よ。長政も。ま。浩感あり。
 治早く。内國のうあ上放へも能く。テ。然る。開東治平の計果は。は。は。は。
 へ。程も。あ。必。征討のたのむ。さ。び。大軍と。一。而んと。ま。あり。治平
 刀を。揚。て。退。出。さ。これ。を。受。り。殊。に。東。八。州。に。名。成。致。し。る。勇。ま。す。て。殊。に。智。徳。治。平。に。像。
 と。治。平。の。し。が。ま。し。小。治。平。者。も。り。當。時。の。軍。家。也。射。思。の。傳。已。が。あ。ら。な。り。さ。き。年。後。於。
 此。の。協。へ。う。ん。況。や。陪。臣。の。身。か。は。せ。る。も。の。も。各。名。の。勇。ま。す。と。古。治。平。が。射。致。さ。り。て。
 小。治。平。の。兼。て。道。清。が。奇。ぬ。巧。なる。獻。開。あり。し。勅。使。と。り。て。武。藏。野。の。風。素。を。回。り。さ。る。よ。
 道。清。が。ぬ。く。も。あり。き。り。夕。づ。ら。の。や。う。う。ひ。り。た。む。き。の。ま。
 道。清。く。勅。使。の。信。さ。る。よ。又。陽。田。川。都。も。と。回。り。さ。る。よ。道。清。

せ。い。も。て。て。り。ま。す。と。も。め。た。も。す。と。川。あ。は。る。ま。あ。れ。ど。も。
 勅使ありき。て。麥。圃。の。し。く。く。獻。感。斜。さ。る。御。製。不。引。物。と。経。く。ら。り。ん。
 む。き。一。路。へ。か。る。や。と。め。あ。ひ。い。よ。の。も。こ。を。た。れ。た。る。や。け。ら。む。
 其。以。細。川。精。元。道。清。が。文。通。の。序。唐。の。韓。退。之。之。短。意。不。成。功。と。り。か。は。向。の。ま。さ。る。と。た。
 り。さ。が。さ。る。め。ま。せ。て。し。り。ま。を。旅。人。の。ゆ。り。と。の。け。り。野。崎。の。も。り。ん。
 か。く。道。清。の。あ。ら。の。首。尾。跡。を。知。さ。る。後。倉。へ。ゆ。り。ま。て。定。兵。對。也。右。軍。之。及。
 此。言。の。事。も。も。其。計。策。さ。り。と。ま。る。く。言。と。し。と。ま。れ。ん。と。さ。も。殊。の。外。獲。さ。り。た。れ。
 たり。夫。の。道。清。の。麻。谷。谷。茂。物。を。一。氏。に。許。さ。る。も。り。ん。
 ○古河の成也長尾昌賢と武及今并合戦附り治成朝先陣武
 勇と著者と事
 是。又。あ。し。く。秋。弘。定。の。老。臣。長。尾。入。道。昌。賢。へ。古。河。の。山。所。を。退。治。せ。んと。し。る。あ。ひ。ん

らん崩谷人も知つてさびしうて文正元年丙戌二月中旬八千餘騎を率し
古河の城を向ひける。母軍かきあはしむ。成氏も部下の佐将をあへん
らるる。二千餘騎の着到なり。け小勢なり。も尾が軍と強ひて戦
かす。るる。石段城小楮のり。要害よりして防がんと評定ありける。ふ
治成中勢少補成朝進とあてやきう。九城小籠るとり。止む事なほ
ゆえなり。今籠城せし敵は氣と音も味方乃勇と屈し。又後治の助を
あし。さゆる。時を精ま。種小走し。落城。中あへん。一騎うとも。あて
出。鎌倉勢を待たせし。味方小加ふる者多て。あへん。も尾が勢八千騎。味
方も二千あり。敵の多し。比る。ふ。二人は。中。強。合。の。軍。め。の
程。め。相。あ。ゆ。ぞ。い。え。ん。う。ふ。と。り。よ。む。ぞ。と。て。敵。ま。よ。あ。せ。ら。せ。と。て。尾。負。け
る。と。ん。と。せ。ち。お。の。石。免。ち。れ。も。尾。勢。が。武。勇。が。六。知。り。逃。し。と。り。り。代。を

も神速と貴ぶとへり。い。の。も。成。朝。先。陣。は。り。蹴。散。し。て。捨。れ。ん。途。中。あ。て
一戦し。も尾入道は。味。方。を。と。り。て。あ。へ。ん。一。万。の。一。も。利。ま。ら。ん。が。甚。し。と。て。も。籠。城
も。然。る。べ。く。と。結。手。瓜。屋。ま。理。と。説。て。あ。り。と。人。と。世。言。ふ。勇。も。も。説。士
勝。り。と。二。千。餘。騎。古。河。の。城。を。あ。て。て。武。藏。國。豊。嶋。郡。今。井。谷。と。い。ふ。所。で。出。張
して。け。り。陣。と。り。も。尾。方。の。者。も。あ。ち。の。方。小。勢。と。陣。を。あ。め。り。母。成。氏
離。れ。て。逃。れ。し。他。國。まで。あ。り。べ。い。と。あ。り。の。も。う。と。と。空。り。て。籠。城。と。指。置
て。八。千。餘。騎。の。軍。を。あ。り。ひ。く。と。進。む。と。い。ふ。勢。く。油。割。せ。し。あ。へ。ん。敵。も。今。井。まで
あ。り。と。い。ふ。あ。り。も。あ。り。と。す。と。と。う。く。と。と。あ。せ。ら。る。備。又。結。成。朝。の。後。降。り
し。者。あ。り。と。い。ふ。乃。者。教。官。敵。陣。へ。い。ま。き。雜。説。を。あ。り。せ。ら。る。成。氏。も
方。の。鎌。倉。の。大。勢。あ。り。と。聞。て。あ。り。の。二。千。餘。騎。あ。り。と。い。ふ。も。あ。り。と。い。ふ。と。い
失。く。僅。小。入。り。と。い。ふ。あ。り。と。い。ふ。是。め。と。い。ふ。籠。城。多。く。い。は。し。下。総。の。千。五。百



長祿二辛巳年正月
元日天に二ツの日双
猪人驚るる圖



頼りて落行んと用意する由めくゆく實しやうとせしむ。も尾勢へこれん
し我かひて思ひし事あり。千葉八項日よ投家瓜根むる子細ありて。か中平車
と風雲あり。清助とよおせおとく。後日の頼ひまゝ。道と遮りて射つ
高しとく。三千騎と二とあり。千六百騎。下総の音節郡市川の渡り陣。
千六百騎。同船松戸の渡り陣。今や遅しと待たせり。同者どもあり
来りては。松戸の渡り陣。今や遅しと待たせり。今や敵を怖るく。ふとく。と
とて。今井乃。二引総の旗かき。態と旗のまのむら。一勢く
陣つらつて。控えし。も尾方のかくとも。つと。品川と。越く。繩の巻よ
か。浪谷と。通て。今井乃。牛込。つら。千。へ。出。と。進。と。は。い
け。大。勢。を。信。形。瓜。押。を。へ。か。面。の。道。を。と。つ。て。其。下。を。除。き
送。と。せ。て。城。の。西。瓜。を。を。る。る。と。此。道。は。河。越。の。城。に。在。る。と。も。あ。り。

舍身千代田若狭守。同寶田源八郎。多能王。居れば。越く。遠く。と。り。あ。る。
さ。る。あ。ら。も。も。尾。が。先。隊。今。井。乃。来。り。と。向。ひ。あ。る。と。見。上。り。これ。と。は。混。甲
の。軍。の。千。を。う。整。く。と。も。え。ま。り。是。の。敵。味。を。お。旗。の。ま。と。あ。り
さ。の。見。方。に。後。陣。の。勢。を。待。と。り。大。將。の。下。部。を。け。て。多。分。進。む。と。も。
も。調。と。ひ。う。え。て。猶。後。り。成。氏。を。と。り。敵。の。先。陣。通。つ。と。り。後。陣
に。後。ら。る。る。の。形。一。歩。あ。り。と。し。ト。知。あ。る。結。城。を。朝。暮。の。と。り。千
餘。騎。を。急。轉。小。さ。て。陣。の。声。を。揚。と。ひ。と。三。段。の。た。り。巴。の。旗。は。を。と。り
旗。の。ま。と。さ。り。と。下。し。遠。散。と。せ。て。か。も。も。尾。勢。へ。結。城。を。旗。の。紋。と。り。と。り
清。助。の。は。是。ま。で。出。か。ひ。と。り。程。と。も。あ。り。先。陣。二。つ。り。後。陣。の。外。も。色
め。は。く。部。伍。る。る。と。り。え。ま。り。は。敵。將。と。り。か。し。と。雷。雲。の。車。と。り。と。り
責。と。り。と。り。も。尾。が。先。隊。と。り。と。り。進。ら。る。と。東。軍。の。方。へ。逃。走。と。り。と。り。追。ひ

長尾勢の模合より。急の擲りて戦ひて。成氏も百餘騎と
 縲せられ。其れを智くと追する。長尾勢の長途を去るのみあり。先陣の
 敗軍と聞て馬を早めて馳来り。さきより喉に今井の臺よりまかり。
 ち度勵しきり。いふ人馬とも息をつら。氣力尽して引かざる。重なり
 重なりと荒る。千五百騎。あきらむる。あせまれば。智射も堪へず。戦ひと
 する術もあらず。我先ゆと。逆をふ。結陣のり。勝ふ氣に後ゆ付て追付て。今
 井の臺の原の方より。谷より向ひて。人顔を築く。陣ひ落人馬まうて死す。こ
 そりの救と知れども。適助する者。弓矢を力と捨てる。いさうり。さきより。其れ
 御民等。いふ。徳付てぞおぼえり。鎌倉勢。千騎の八方。散れ。又一。あやも
 集り。ね。昌賢入道も。さき。あ。神奈川まで。引退き。撞規。い。陣。と。り。と
 市川。杉戸へむ。い。三千。餘騎。を。陣。と。り。と。成氏。さ

討たる。首級三百四十七。竿括ひ。こ。今井の臺。懸あり。凱歌。三度。執
 行。い。吉河の。い。を。飯。と。り。と。其れ。後。武士。其れ。忠。貴。と。り。と。中。あ。も。結。陣。が。軍
 功。校。群。り。と。と。武。藏。相。摸。上。総。下。総。の。國。く。小。由。領。少。く。有。り。紙。分。り。と。成。朝
 小。編。ひ。さ。り。成。氏。鎌。倉。を。退。去。あり。と。古。河。へ。移。ら。れ。後。ハ。威。光。日。く。衰。へ
 武士。よ。り。と。所。領。も。百。姓。種。く。難。儀。と。納。も。減。少。と。り。と。理。を。さ。り。と。れ
 成。氏。い。さ。り。と。幸。ゆ。や。慈。仁。の。公。薄。く。我。れ。の。と。事。と。他。人。の。異。見。を。拒。み。公
 泰。有。り。と。怨。あり。か。り。行。臨。の。大。將。を。れ。親。と。馴。る。者。稀。あり。と。自。然。中。氏
 徳。も。衰。微。と。り。と。其。後。結。成。成。朝。も。い。解。を。り。と。結。陣。の。敗。成。を。り。と。り。と。も
 成。氏。朝。が。本。領。を。悉。く。散。り。他。人。是。と。知。行。を。執。領。の。形。勢。ハ。御。所。成。氏。へ
 忠。節。と。盡。と。り。と。其。遺。跡。の。領。地。を。い。彼。子。孫。の。承。継。と。り。と。不。忠。の。族。押。領。と。り
 と。り。と。東。國。ハ。御。所。管。領。を。始。り。と。國。に。諸。將。小。さ。り。と。忠。と。不。忠。の。吟。味

も如く親跡ふたりて賞罰あれた。人の眼ももろなるゆゑ不。合戦時附も止む
向ふ。世殿は流石よかふべしと思ひあがら。君臣上下の法に違へ奴婢従僕
乃輩ゆでまを敷く世の中とありぬる事こそ落情を申也。

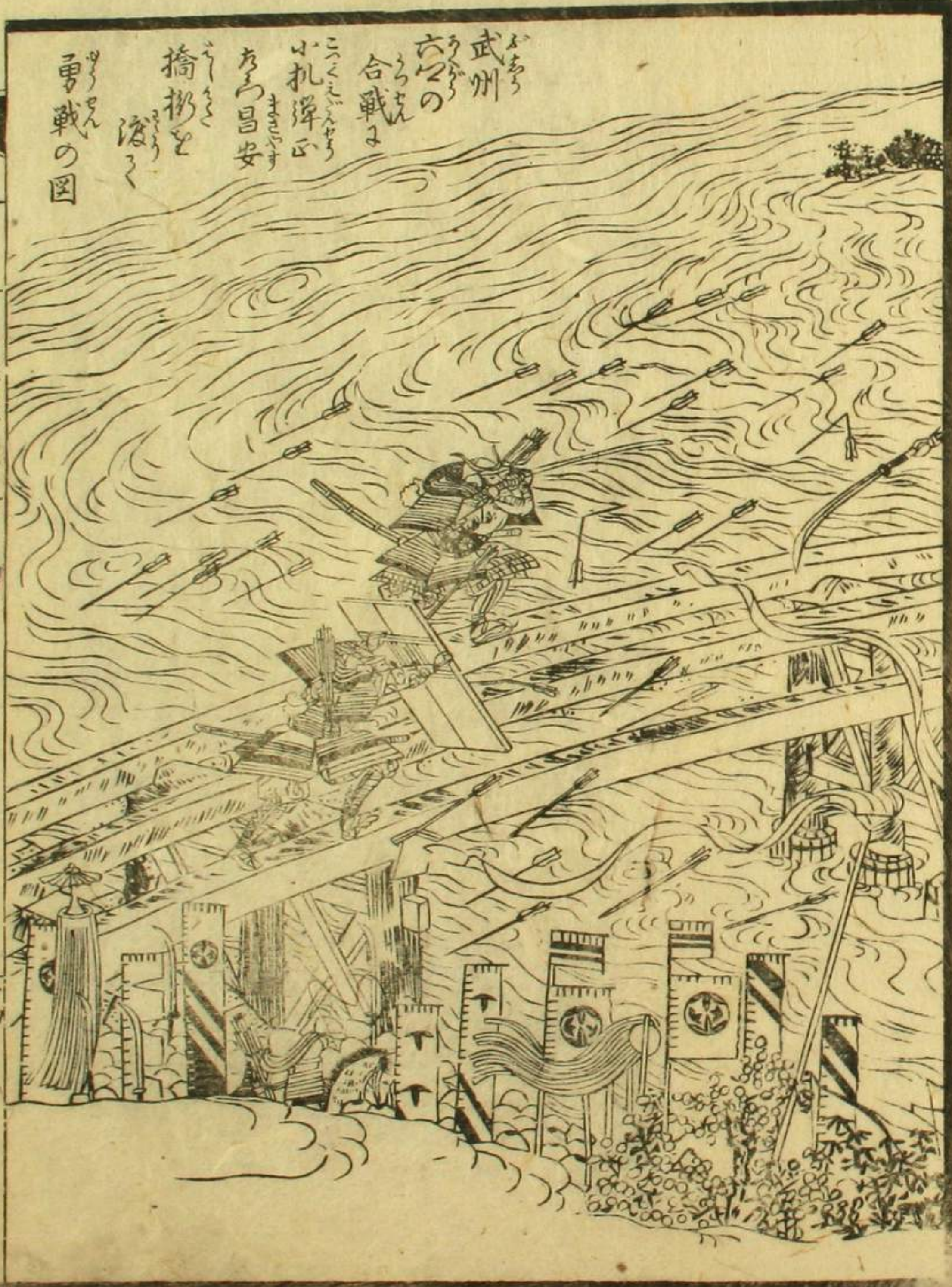
○成氏昌賢と武正の御合戦附り小机彈正左衛門武勇の事

あるち小長尾入道昌賢へ。今井の軍ふち負て鎌倉へ逃げまゝ。上校顯定も
無念の事ふかりし。再兵と備へて古河の城を攻落し。今井の私厚を清へ
と。文正元年三月。上校民部左輔顯定并も尾入道昌賢は是六十餘騎己の
古河へ發向ふぞ。下総へ成氏女由とす。今度も途中よそへ馳向ひ
路次めて唯雄と決せん。城の僅よ三百餘人を残り。其身の二十餘騎は從へ
武藏の虫へおぢされ。以前乃勝軍ふあゝひる者ども。此所被處より馳着まを
三十七百餘騎を有り。五百餘騎を引分け終る。おのこは強くあむむと

大田道灌當時ハ在鎌倉ゆへ。扇ヶ谷の定正の館小居るれども。若長城とす
ふものいとも後以襲ふ事ありん時乃為とて。置とたり。成氏ハ三千二百餘
騎六郷乃川と前小當橋板五間指外へ播播の料とて敵遅くを待くを
まゝ。然る小結城成朝進とて。やまゝの己和今井の戦ひは味方利をゆ
夏ハ敵兵油断りもあゝ振く村務ゆりぬ。今度ハまふゆへ。債妻の公を
安んず。然念勢の歩張延引ハ一つの深とせゆ。津所ハお忍城あり。防戦有ん
ゆへ。今井は落城す。今井の軍も多し。亡ハやま。後念勢の發向延
引とて。向へて。津所の今井の勝利あり。城を離れて。中途めて戦はん
その時大勢の中へ。今井の軍も必死。味方利を失へ。昔より今井三
ふはで。大勢は敵と川を隔てた。今井は多勢のたかり渡され。小

一軍云一度も勝つる前より。治承六年頼政が宇治川をく防りて。公知盛
人將とありて。元利又さ郎忠綱川を以て。政亡び。元暦の未曾の茂伴同
竹中であらじと。佐々木梶原は後され。長伴兼津あり。戦死あり。美濃の
後鳥羽の上皇。鎌倉を亡さんと。中企あじと。東宮上洛す。小栗田義光
を。さうて。上皇遠國へ逃され。その外川をめぐり。肩を。頼政の
かくまひあり。九軍の利。我り。て。勝を。兼。頼。つ。の。勢。を。三。の。方。に。
一。手。の。川。の。向。ひ。の。下。の。方。小。大。師。海。軍。の。あり。こ。も。又。の。勢。の。百。勝。を。以。て。今
一。の。是。も。川。の。向。ひ。の。西。の。方。の。橋。を。小。舟。に。て。在。所。の。世。も。二。百。勝。を。り
信。せ。た。り。と。云。ふ。八。川。の。小。舟。に。て。十四。百。の。二。限。は。備。へ。て。陣。を。居。り。つ。る。は。ま
川。耳。まで。か。へ。ま。せ。川。を。や。り。と。こ。ん。橋。の。行。折。を。や。渡。ら。ん。と。し。て。小。舟。に。て。其
日。の。懸。つ。く。る。は。ん。と。あ。る。夜。に。入。て。密。に。橋。の。板。を。壊。し。多。士。の。百。人。を。僕。と

成朝叔付は。敵起合せ。我多。き。らん。頂。の。大。師。河。原。は。埋。伏。し。て。其
味。方。の。勢。の。上。の。後。有。り。周。と。つ。ま。後。より。攻。討。ん。は。敵。の。猛。く。勇。む。と。も。
敗。北。す。や。の。あ。る。夜。に。入。り。て。密。に。橋。の。板。を。壊。し。多。士。の。百。人。を。僕。と
過。り。橋。を。小。舟。に。て。は。ん。と。あ。る。夜。に。入。り。て。密。に。橋。の。板。を。壊。し。多。士。の。百。人。を。僕。と
く。も。と。こ。も。小。舟。に。て。は。ん。と。あ。る。夜。に。入。り。て。密。に。橋。の。板。を。壊。し。多。士。の。百。人。を。僕。と
下。合。河。を。あ。り。の。方。に。潜。り。二。三。の。橋。を。つ。く。成。氏。の。海。道。より。や。東。へ。下。退
て。陣。を。張。り。勢。の。結。核。を。お。り。た。川。を。あ。り。の。方。に。橋。板。を。教。多。拵。拵。に。捨。捨。拵。拵。に
か。か。あ。る。人。の。旗。を。一。つ。と。混。亂。の。軍。士。の。百。余。勝。弓。の。弦。を。ひ。志。也。矢。束。解。て
待。ち。ま。り。さ。る。や。ど。お。り。夜。に。成。氏。途。中。で。出。張。の。り。と。聞。く。ら。り。軍。小。勝。る。心。地
く。く。小。舟。余。勝。を。引。率。し。山。内。を。あ。り。の。方。に。先。陣。長。尾。昌。興。の。二。千。余。勝。を。後
て。は。ん。と。あ。る。夜。に。入。り。て。密。に。橋。の。板。を。壊。し。多。士。の。百。人。を。僕。と



武州六ツの合戦

十四

武州六ツの合戦

鳴り切てかゝる。入道とてんりりも、いふ敵の後陣へ、口へるぞ。二も分て
隠れとて。茶後、月を覗くまろれ、敵を謀令へる。かゝれ、知ふ又西のかわる
稲毛小枝の休なき、時分つきて、昌興がたの、方へせせり。頃、三月六日の夜、
幸さるる。月を青らうり山の端、よく、色雨、風を大空の星を、ええと、擡量、
暗さへくし敵と、三方の情を、敵と味方と分けて、きて戦ふべ、いふえ、こ
小も、尾の尚も退くと軍を、とも励す、く命を惜まば、空戦を、然とも、神助
方の、あゝ、合、相合、相合、あゝ、く、つ、國士、付さる、一の人も、あゝ、毛尾が、あゝ、
元よりも不意に、付れ、半あれ、すも、す、色め、毛尾入道、ま、ま、り、て下
知、知、た、う、味、方、を、勇、ま、て、支、へ、る、ふ、何、者、も、言、ひ、出、ら、ん、東、國、の、兵、士、も、の、神、助
方、小、翻、ま、く、神、宗、川、の、陣、へ、せ、ま、せ、頭、定、と、攻、る、あり、也、所、以、手、捨、く、彼、所、以、
敵、い、り、り、の、形、定、か、ま、り、伏、付、こ、の、い、ま、ん、と、言、く、は、呼、り、れ、毛、尾、陣、中、氣、と

失ひ皆、神宗川へ、引返を、扱、又、上、枚、形、定、の、毛、尾、陣、不、意、討、の、一、と、存、候、の
者、の、告、り、も、り、昌、興、と、敵、り、ん、と、案、お、ひ、さ、り、味、方、の、兵、士、逃、来、り、て、毛、尾、の
こそ、右、の、方、と、つ、不、あ、り、爰、以、家、族、疾、行、目、ん、と、も、軍、兵、近、有、り、り、由、公、あ、る、
と、ま、の、も、果、々、不、意、軍、勢、か、く、て、叶、い、と、や、あ、り、ひ、ん、一、夜、は、陣、中、乱、と、さ、り、様
念、き、く、引、退、く、毛、尾、入、道、昌、興、の、か、ま、り、も、引、さ、り、と、神、宗、川、ま、で、退、く、頭
定、の、指、子、を、聞、く、ま、も、落、き、り、さ、ら、る、は、是、も、い、ま、も、後、合、へ、引、入、り、也、氏、
二、箇、の、軍、小、少、務、令、秘、考、の、取、派、雷、を、な、る、結、城、本、朝、の、夜、の、先、登、ホ、る、毛、尾、
へ、六、御、の、軍、あ、り、上、枚、形、定、始、て、大、井、が、家、人、と、三、人、ま、で、付、を、敵、小、首
実、檢、の、砌、も、一、人、當、千、の、働、き、あり、と、成、氏、も、感、ト、あ、り、と、さ、る、敵、の、皆、後、合、之、迹
賑、ま、り、六、則、三、月、七、日、首、実、檢、あ、り、也、條、九、十、條、級、あり、奉、海、き、く、軍、才、公、方、い、
古、河、不、澤、改、り、と、さ、り、

○古河方。伊豆の政知と三嶋の戦ふ事。其に古河方。改軍の事。
應仁元年より文明年中に至りて。政知の伊豆の北條堀越の清原不居にあり。
成氏の古河不在に成して。清原東國を争ひ上校。政知の後領する。合戦止む
時あり。されど成氏の世征の傍軍。不公傲上。文明三年辛卯三月。結城小山不令
ど。伊豆へ遣つ。政知の討つ。是の東國。清原の軍。政知亡び。再成氏東
國のまゝありとの討集ふたりあり。結城小山。千葉の西へ。遣言をく。率。
清原箱根山を越く。伊豆の三嶋山。政知の不言。政知の備ををり。政知のふた
こ。備の勢も。あざる。政知の防。御の便を。早馬を。りて。駿河の今川。能忠。援を
とをい。こ。後。ゆ。出。ま。ま。の。ひ。の。敵。の。名。の。入。救。良。の。軍。の。功。を。擧。げ。る。結。城。小
山の者ども。あま。政知方。敵。の。名。の。入。救。良。の。軍。の。功。を。擧。げ。る。結。城。小
道。ゆ。り。度。く。と。其。後。不。政。知。の。加。勢。く。て。結。城。小。山。飯。路。瓜。原。切。後。陣。より。責。

か。且。て。結。城。小。山。の。も。と。も。を。勝。と。二。ふ。り。か。け。て。戦。ひ。の。後。と。討。つ。一。事。
由。る。不。令。上。校。方。の。箱。根。山。の。軍。小。勝利。を得。後。勢。の。不。令。上。校。の。城。を。攻。め。ら
せ。於。定。伊。豆。の。位。人。宇。佐。美。藤。三。郎。孝。忠。二。君。左。衛。門。尉。結。城。小。山。守。伊。豆。守。藤。三。郎。孝。忠。是。守。貞。良。の。嫡。子。なり。政。知。の。後。に。戦。後。の。國。を。治。め。り。是。故。に。守。守。の。の。ゆ。り。なり。と。大。お。と。く。み。の。後。藤。と。お。原。途。中。不。令。上。校。を。責。め。ら
せ。る。も。と。も。鬼。神。の。ご。と。く。聞。え。ら。る。千。葉。結。城。小。山。の。者。ども。糶。す。に。戦。つ。糧。食。を
飢。う。ま。う。り。の。あ。ま。さ。な。氣。力。も。無。く。残。り。あ。り。不。付。き。に。成。り。古。河。へ。引。ひ。か。せ。ら
れ。り。○長尾昌賢古河の城を落し。附り成氏千葉を退去の事
は。る。を。ど。上。校。方。の。箱。根。山。の。軍。小。勝利。を得。後。勢。の。不。令。上。校。の。城。を。攻。め。ら
せ。て。文明。三。年。乙。卯。の。半。長。尾。入。道。昌。賢。大。城。を。引。率。一。と。下。総。の。國。へ。發。向
と。古。河。方。も。今。交。へ。結。城。小。山。も。合。合。さ。れ。り。戦。ひ。の。勢。が。多。く。も。一。戦。も
及。び。ざ。ら。居。行。ん。も。無。念。形。り。大。敵。を。引。清。く。運。と。一。時。は。試。み。んと。言。力。を。成。

勵よろこき用もちえとあり。上かみ校がう方の者ものどもへ。接つぎ合あひの事ことも。所ところ々々小こ押おしえと。古ふるの
方かた既すでに弱よわり。城しろの分ぶん隊たい何なにれ。事こと何なにんと。まうと。ひひく。攻せう具ぐと。後あと
々々。具ぐと。其そのを。報うけと。大おほに。擲なげて。一ひと同どうに。曳ひく。声こゑして。攻せうまう。城しろも
か。新あらたに。朝あした。方かた。事ことあり。色いろ。沼ぬま田た。高たか。三さん浦うらの者ものども。攻せうま。馳せせ。如ごとく。定さだま。者もの。途と
防ぼう戦せんと。上かみ校がう方かたの。大おほ軍ぐん。由よし。荒あら。色いろ。と。入い。習しゆく。ひ。攻せうま。ま。ほ。と。小こ。城しろ。ま。の。息いきと。
休やすむ。隙ひまも。無なく。皆みな。悉しつた。く。疲つか。色いろ。一ひと方かたを。攻せうま。う。れ。て。今いま。の。如ごとく。と。も。す。ら
事こと。の。つ。ひ。終つひ。不ふ。六む。月げつ。廿にじゅう。四し。日にち。落おち。城しろ。と。成なり。氏うぢ。の。病やま。不ふ。終つひ。と。千ち。葉は。と。う。て。落おち。り
と。馬うま。加か。入い。道みち。又また。子こ。を。殺ころ。す。梅うめ。酸さん。の。濁にご。水みづ。も。息いき。り。た。せ。と。は。法ほう。軍ぐん。の。か。の。ま。の。ま。
お。あり。の。ま。を。ども。結むす。城しろ。水みづ。朝あした。を。う。へ。一ひと。番ばん。お。馳せ。ま。り。側そば。と。離はな。れ。て。供くわ。奉ほう。し。う。り。ら。る。
かく。て。古ふる。河か。落おち。城しろ。の。沙すな。は。追おひ。く。所ところ。と。不ふ。聞き。え。一ひと。六む。安やす。房ぼう。の。里さと。見み。上かみ。総そう。の。お。武ぶ。田でん。小
金かね。の。系けい。紙し。後ご。も。其その。外ほか。近ちか。辺へ。の。勢せい。も。上かみ。一ひと。と。是こゝ。と。守まも。り。と。は。て。又また。お。上かみ。校がう。へ。入い。り。ま

ふ出張しやうちやうと。成なり。氏うぢ。の。小こ。公こう。孫そん。者もの。ども。と。付つ。き。ん。と。付つ。き。ま。り。と。地ち。と。も。沖おき。前まへ。方かた
あ。結むす。城しろ。の。一ひと。族しゆ。野の。田でん。が。二に。族しゆ。又また。園えん。宿しゆく。あ。の。海うみ。小こ。田でん。が。車くるま。私し。事じ。の。仇あだ。な。り。野の。野の。ゆ。を。
那な。須す。の。士し。家け。と。始はじ。り。と。と。お。め。く。感あは。れ。る。成なり。氏うぢ。の。命いのち。よ。ま。さ。ひ。ら。る。が。最さい。初しゆ。後ご。会かい
と。没ぼつ。落おち。め。り。し。う。古ふる。河か。不ふ。移うつ。り。と。う。う。ひ。お。國くに。と。成なり。氏うぢ。の。命いのち。と。あ。り。ま。さ。ひ。ら。る。と。
其その。事こと。就すなは。ち。と。古ふる。河か。を。退ひき。き。め。り。と。千ち。葉は。紙し。と。な。れ。ども。系けい。小こ。事じ。の。ま。の。り。任まか。せ。り。
甘あま。と。君きみ。も。小こ。公こう。孫そん。と。思おも。ひ。て。居ゐ。り。し。へ。の。こ。う。り。事こと。ども。れ。り。

○長尾京春ながおのきょうはる通とほか所ところり古田道灌ふるたのみちくわん里さと見みの事こと

愛あい。小こ。山やま。の。内うち。の。老らう。信しん。長なが。尾おの。を。後ご。門かど。尉ゑい。神かみ。宗むね。入い。道みち。昌あき。賢けん。へ。平へい。日にち。壯さう。健けん。あ。り。し。り。ぞ。
定さだ。ま。る。涯はた。あ。り。き。ん。仮かり。初はつ。病びやう。と。得え。て。医い。茶ちや。の。効きう。強かう。も。多おほ。く。文ぶん。明めい。の。事こと。
上かみ。月げつ。黄わう。泉せん。の。客きやく。な。り。と。是こゝ。へ。頭あたま。定さだ。ま。殊こと。小こ。難がた。と。思おも。ひ。し。此こゝ。入い。道みち。教かう。を。乃な。戦せん
場ば。肺はい。肝かん。と。碎くだ。き。精せい。神しん。と。考かう。し。う。事こと。深ふか。く。憐あは。れ。し。佛ぶつ。事じ。懇こん。あ。り。し。り。の。れ

なる。是よりて補佐の内後領無くはけり。冒突が才。七尾尾張守太素中付のり。然るも七尾はらるる門尉景春の故入道が嫡子あり。七尾一家の中あり有勢の大心あり。是より老父留懐忠孝他子異あるゆゑ。上杉の家務職の執ありてはけり。此のひそかに七尾の才。伯父忠孝中付のり。生笑後あり。是のあり。大不義定を恨み憤りて。忽て公の企備の死定を亡し。己が本意と違見とけり。吾く我一己の執ありてはけり。これの扇が谷引ひきて。死定亡び管領へ定正一人小歸し中え。然らば此の國も多くなり。吾も數多死定ありん。かくして中野を退治せ。其功速よ成す。とて初め。定正の國をわん。あれ最上乃謀略ありと獨嘆して。さるも中野の扇が谷の執事あり。是の縁者自れが通達ふとて。傳合見とて。氏茂の在任へあり。通達不對面。寒暖語

終りて素より。中野が側近く居る。宗室は宿意のひもむ。然るも。谷後太必定許寄ゆん。足下も又さる。此事能く言上し。のり。思入りて。さる。道途つくと足と聞。さる。や。大事あり。猶脱不蕭牆乃同。然りし。中野の勢。く。と。さる。ね。舞。よ。れ。足下の尊憤。道理。ふ。極。なり。けり。さる。山の内。後。辭。事。の。り。も。三代相恩の。主。君。あり。足下。親。父。と。し。て。功。あり。とも。臣。あり。さる。や。臣。と。て。君。不。仕。人。粉。骨。碎。身。と。も。獲。り。不。得。る。べ。き。理。あり。持。不。忠。逆。心。の。者。終。成。合。う。する。事。は。し。本。朝。異。域。の。遠。き。昔。の。ゆ。も。て。赤。松。備。祐。が。義。教。公。を。執。り。を。り。も。命。と。白。旗。の。旗。を。落。し。長。棟。庵。主。の。持。氏。々。公。の。一。も。軀。と。中。國。の。寺。院。不。敬。と。七。尾。の。威。の。強。き。さ。上。杉。家。存。る。さ。る。上。杉。又。東。國。の。佐。ね。と。指。揮。す。る。後。領。の。任。重。き。事。あり。皆。是。公。事。あり。て。其。人。の。私。志。あり。ん。此。事。三。思。の。後。を。さ。る。公。の。め。り。し。

のうらとすまれば。素春のうも足下のすまらぬ。大道の確論ありぬ。今うかふ
擾乱の時ありて。聖人も用たふ所あり。其暗まらば廢し。明君はあらん
ふ。何の不安といふ事やあらん。我の腕もたせり。面色變じて見えたり。道灌
尚も綱を握り。其まは撫て事とぬらん。とらへ。君暴虐あるが由あり。其法
絶つと患ひ。祖先の祀と終ぎ。民と安くせん。とらへ。私恨は以
てとらへ。事とすまを。祭と南無ふ。社と鹿臺ふ。燔ととらへ。成湯武王
の子民乃陰炭伐。人のよまら。人の徳ふれば。天と我ら。罪令ら。
まは裁する者。竹の節をりて。其首と斬る。是天下の大法あり。事と別
て。とらへ。と教諭す。とらへ。素も。道灌も。心色と直
漸。素の躰。とらへ。道灌も。才志の綱。入ら。謝。とらへ。
酒者と。後りて。とらへ。素も。いと。とらへ。已。居。所。へ。帰。

ら。とらへ。兎角。此。事。止。とらへ。密。とらへ。逆。意。の。計。兼。以。昼。夜。ふ。とらへ。ま。せ。め。ら。とらへ。

○道灌上校顯定へ景春誅討を勸む所。素長保叙の事

か。とらへ。田。道。灌。へ。素。も。事。捨。とらへ。忍。び。と。五。十。子。乃。陣。へ。とらへ。顯。定。
とらへ。見。とらへ。七。尾。も。とらへ。智。深。とらへ。事。不。就。とらへ。城。む。とらへ。保。り。
とらへ。六。部。家。の。執。事。へ。とらへ。び。とらへ。ゆ。とらへ。父。入。道。忠。功。とらへ。とらへ。
武。藏。の。身。價。代。とらへ。とらへ。兼。とらへ。不。和。とらへ。とらへ。和。後。とらへ。とらへ。素。
とらへ。も。とらへ。の。とらへ。令。とらへ。一。旦。は。國。の。とらへ。とらへ。遣。とらへ。とらへ。素。
とらへ。も。とらへ。素。とらへ。内。外。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。
とらへ。の。とらへ。素。とらへ。とらへ。の。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。
とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。とらへ。



中本 十返舎一九著
 葛飾北齋戴斗画
 此小冊一本 右邊 横切 一 官 入 入 入
 財
 却
 忍

上
 庫
 分
 へ

太田道灌雄飛録卷之四終

